

井戸端だより

第 84 号

発行日：2013.12.17

発行：くらしの学習会

師走に入り、何かと気ぜわしい毎日ですが、皆様、いかがお過ごしでしょうか。

特定秘密保護法案関連のニュース、記事がこのところ頻繁に取り上げられています。政府自民党は国民の生命・身体を守るために必ず必要だと言いますが、何故そのまま受取れないと感じるのでしょうか。あまりにも法案通過を急ぎ過ぎたところにうさん臭さや恐ろしさを感じるのでしょうか。国民の知る権利は、民主主義国家の肝です。制限は最小限にとどめなければならないと強く思います。

さて、第 84 号会報をお届けします。皆さまの生活のスパイスになれば幸いです。どうぞ良いお年をお迎えください。

目次



- | | |
|------------------------|--------------|
| ・ 10・11 月例会報告 |P.2~4 |
| ・ 愛媛新聞記事切り抜き「おかえり一遍さん」 |P.4 |
| ・ 坂村真民記念館を訪ねて |P.5~7 |
| ・ 『めぐりあいのふしぎ』を読んで |P.7~8 |
| ・ ルーツを探る |P.9~10 |
| ・ 甥の結婚式 |P.10~11 |
| ・ 冬の短歌五首 |P.11 |
| ・ 雑感 |P.12~18 |
| ・ ヒラさんとの再会 |P.18 |
| ・ 愛媛県内外国人登録数 (EPIC 調べ) |P.19 |
| ・ お知らせ・編集後記 |P.20 |

10月例会報告

10月23日（水）現在坊っちゃん劇場で公演中の歌舞音曲劇『げんない』を観劇することになりました。この日の公演は14時からなので、12時にクルースモール内の中華料理店で昼食を取りながらのミーティングを5名参加で行いました。11月例会は11月19日（火）滑川溪谷での紅葉狩り、12月は17日に「井戸端便り84号」の印刷・発送作業を行い、その後S. Mさんの自分史「乗り越えて のり越えて ここに泉あり」出版のお祝いを行うことを決めました。この日S. Mさんも参加されていて自分史には書けなかったエピソードを聞かせて頂き、もう一冊「自分史」が出来る程の人生を送って来られた事を知りました。13時30分までお喋りをしS. Mさんとはここでお別れをし、4名で坊っちゃん劇場へ向かいました。

劇場内には既に大勢の観客が座っており小学生の団体も後部席に座っていました。私たちの席は前から5列目の真ん中、げんないの幕を正面に見ながら開幕を待っていると、後ろの小学生たちの可愛い声が歓声に変わったので振り向くと、ピエロ姿の「からくりクリ坊」の pantomime パフォーマンスが始まっていました。客席内を前後左右へ柔軟な体の動きで驚かせ、身軽に動き回り気が付けばすぐ側の席に座っていたりして子供も大人も楽しませてくれ開幕となりました。このクリ坊、劇中でいい味を出していました。

げんないの幕が上がると見せ物小屋風の舞台が表れ摩訶不思議な「奇想天外ショー」が次々と展開され、キャストによるダンスや歌声が音響効果と相俟ってダイナミックさが増し一気に魅了されました。キャスト13人のほとんどが舞台に出ずっぱり状態、三階建て仕立ての舞台セットを上下左右に動き回り、照明の当たっていない所でも次につながる動きがシルエットで見取れます（使い終わった小道具なども美しいしぐさで片付けられていた）パンフレットに「江戸時代に自由を唱え、100年先を予感した源内が追いかけた夢のおもちゃ箱が、平成の世にはじける」とあるが劇場内ではじけていたのは間違いない事実でした。

私が知っている平賀源内と言えば「土用の丑の日のうなぎ」のキャッチコピーと「エレキテル」くらい。源内の実績として国内初の物産会（博覧会）を開催、文士としての源内、万歩計も源内？とパンフレットに記されています。

す。源内年票によると金・銀・銅・鉄などの鉱山調査や指導の為日本中を廻り、博物学者・作家・陶芸家・発明家として才能を発揮し、日本のレオナルド・ダ・ビンチと称される。しかし、1779年あやまって人を殺傷し、1780年1.24 52歳獄中で病死とあり知らないことばかりの平賀源内の人物像を知る良い機会でした。物語は源内とその仲間たちの自由奔放な姿が多く表現されていましたが時は江戸時代、庶民が自由奔放に生きていく事が許されない時代背景がちりばめられていて涙する場面もありました。キャストのダイナミックなダンス、素晴らしい歌声に接し子供達も心の栄養をしっかりと蓄えて帰っていったことでしょうか。本物の力って本当に素晴らしいものだと感じた2時間でした。2014年3月中旬まで公演は続くので沢山の方々に観て頂きたいと思いました。(A.M)

※新聞記事によるとこの「げんない」を愛媛CATVの協力で撮影し舞台の熱演を堪能できる2時間の映像作品に仕上げ10月21・22両日東京の「シネマサンシャイン池袋」で上映会をおこなった。21日夜の上映で約220人の入場者を前に脚本を担当した横内謙介氏が「一年間上映が続く作品だけにやりがいを感じ本気で作っています」とアピール。一方で「坊っちゃん劇場は東京で驚くほど知られていない。上映会を通して東京などで劇場を話題にもらい、この素晴らしいものが長く続きもっと大きくなってほしい」と求めた。この上映を記念し、愛媛CATVでは【おたのしみ&スポーツチャンネル】で10月23日に映画前編、12月末に同後編を放送するそうである。

2014年4月からの坊っちゃん劇場次回作は、2014年の道後温泉本館120周年を記念し道後湯之町初代町長の伊佐庭如矢(ゆきや・1828~1907年)を主人公にしたミュージカル「道後湯の町」(仮称) 上演予定は4月11日~9月下旬と制作発表されている。(下半期は別作品を上演する方針)※



奇想天外 ほんない
歌舞音曲劇

(坊っちゃん劇場パンフレットより)

おかえり一遍さん

木像焼失の松山・宝蔵寺

時宗の開祖・一遍上人の生誕地として知られ、8月の火災で本堂とともに「木造一遍上人立像」(国重要文化財)を焼失した松山市道後湯月町の宝蔵寺(母つじん)に、新しい木像が届いた。焼失を知った同じ宗派の住職による力作。3年後を目指している寺の再建と同時に公開予定で、復興へのシンボルとして地域の人たちに希望をもたらしている。

像はクスノキの寄せ木造の像の写真や資料を兼ね、高さ約1.2m。交大きな表情、合掌の姿勢流がかった光照寺(宮崎県)を再現した。18日に宝蔵寺(西都市)の村上弘昭住職を訪れ、像を安置した。(56)が、約2カ月かけて元 村上住職は彫刻が長年の

宮崎の住職 力作贈る



焼失した木像を模して制作された一遍上人立像
＝20日午前、松山市道後湯月町

「そっくり」復興象徴に

興味で「宝蔵寺は時宗の開たところ。どんな形でも帰のきっかけになれば」と思。祖である一遍上人の生まれ、らてきてはしかなかった。復興いを語る。(復部監写)

宝蔵寺の長岡隆祥住職(80)は「横顔もそっくり。本堂にありかたい」と喜び、寺の再建に向け「これは縁に開まれ、松山城が見える。訪問者がくつろげるような場所にした」と意気込んだ。道後地区では11日、まちづくり団体や旅館、商店街の組合が宝蔵寺再建や周辺地域の活性化を目指す「道後上人坂再生整備協議会」を設立し、再建に向けて募金活動を始めると新たなスタートを切っている。

11月例会は、紅葉狩り予定していたが悪天候のため『坂村真民記念館』を訪れた。「宇和島時代の坂村真民」～一遍上人・森信三先生との出会いと、詩人として生きる決意～が企画展示されていた。

パンフレットには昭和34年初めて道後の宝蔵寺を尋ね、一遍上人立像と対面しその足に触れる事により一遍上人の魂と交流し、真民は一遍上人に付いていく事を決心したとある。

今年8月、宝蔵寺の火災で本堂とともに「木造一遍上人立像」を消失、だが、「宮崎県西都原の光照寺の住職が再現し像を安置した」との新聞記事に『坂村真民記念館』を訪れ真民と一遍上人との深い関係を知った上でこの新聞記事を添付させてもらった。

くらしの学習会のメンバーが宮崎県に在住していることを思うと身近に感じる記事でもあった。(A. M)

坂村真民記念館を訪ねて

11月19日、10時、あさつゆ集合、滑川溪谷へ紅葉狩りに、くらしの学習会で出かける予定でしたが、雨のため急遽、坂村真民記念館に行く事になりました。私は三度目でしたが、方向音痴なので、カーナビにまかせてやっと「念ずれば花ひらく」の詩碑の前に着きました。

木をふんだんに使った温かな建物の中に入ると学生の団体が見学を終えて、ガイドの説明を聞いておりました。入館料を払って第一展示室に足を踏み入れると、そこには清らかな真民さんの世界が広がっていました。どの書も真民さん自ら筆を執られ、愛に満ちたみずみずしい感性の中から生まれてきた詩で埋まっていました。一番最初に迎え入れてくれた詩は「タンポポ魂」でした。



「タンポポ魂」

踏みにじられても
食いらぎられても
死にもしない
枯れもしない
その根強さ
そしてつねに
太陽に向かって咲く
その明るさ
わたしはそれと
わたしの魂とする

真民

次に目に留まったのは、私の実家の内子町の門前に書かれていた「尊いのは足の裏である」でした。

「尊いのは足の裏である」

1
尊いのは頭でなく
手でなく足の裏である
一生人に知られず
一生涯にない処に接し、
黙々として
その努めを果たしてゆく
足の裏が教えるもの
しんみんよ
足の裏的な仕事とし
足の裏的な人間になれ

2
頭から光が出る
まだまだだめ
額から光が出る
まだまだいかん
足の裏から光が出る
そのような方こそ
本当に偉い人である

真民

私は第一、第二展示室を経て、くらしのメンバーから一人離れて、真民さんの書齋に上がらせて頂き、しばし真民さんとのめぐりあいの不思議に思いを馳せました。あの日は緑に萌えた山々があでやかにふくれ上がって谷筋を上る朝霧が墨絵のような日でした。ふと窓外に目をやると一人の老人が石にもたれて立っていました。玄関を開けて「おじいさんお茶でもいかがですか」と声をかけると、にこにこして入ってこれ一服しておられると、カメラをかついだ人達が来られました。その一人から風呂敷を受け取り「念ずれば花ひらく」の色紙をいただきました。そして主人の作った木の橋の上で、真民先生が新緑をバックに立っておられる「詩魂の源流」というビデオを送っていただくご縁にめぐりあえたのです。この「詩魂の源流」は、悲しみや苦しみをいやし、貧困や争いをなくし、生きとし生けるものへの限りない愛をそそぎ続ける、祈りの詩人、坂村真民の真実の姿を、加藤剛の朗読とオールロケによる映像で感動的に描かれています。前回、訪れた時は映像コーナーで「詩魂の源流」が流れていて、阿歌古溪谷や酒だる村周辺が映り、酒だるが消えても、ここに来ればよいと感動したものでした。今こうして静謐な空間に身をおき真民詩に向き合っていると、心から安らぎ、不思議と落ちついてきます。そして生きる勇気を与えられます。

さて、皇后さまは平成 25 年 10 月 20 日、79 歳の誕生日を迎えられました。記者会の質問に対し文書で回答を寄せられました。東日本大震災による避難者が今も 28 万人を超えていることに触れ「大震災とその後の日々が、次第に過去として遠ざかっていく中、どこまでも被災した地域の人々に寄り添う気持ちを持ち続けなければと思っています」とつぶっておられます。その後、各地で相次いだ豪雨や竜巻など自然災害や台風 26 号による伊豆大島の被害発生を深く案じられ、20 日に予定していた宮殿での祝賀行事はすべて中止されました。

とかく私達は、喉もと過ぎれば関心がうすくなりがちですが、美智子皇后が社会問題を自分の問題として考え、どこまでも、何年たっても、震災の被災者に寄り添うお心にふれ、頭の下がる思いでした。為政者がこのように真摯に国民の声に耳を傾ければ、次々世代が生きていける平和と環境を渡すことができるのですが、悲しいかな「見ざる、言わざる、聞かざる」で数の力で決まってしまう現状です。それがどんな未来に繋がるのかを考えると怖い気がします。

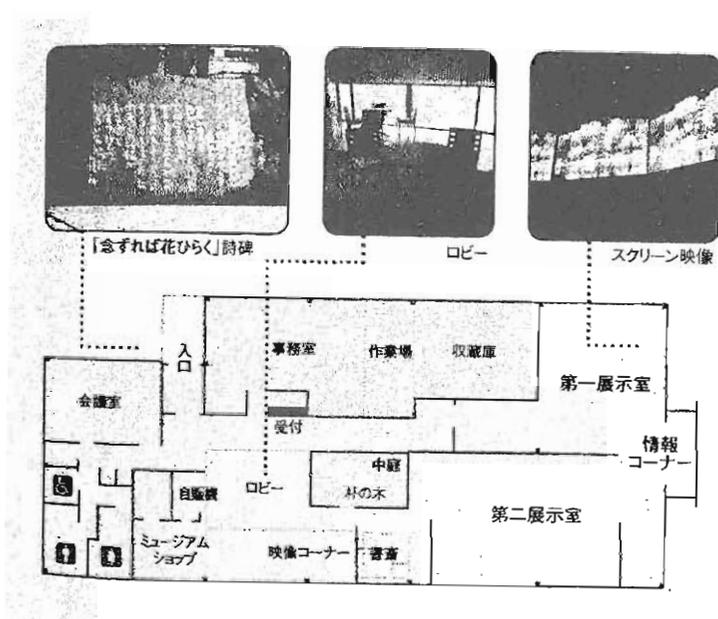
『詩国』第39号 12月号

「声」

20世紀の初頭に生まれ
動乱の中に生きて来た
わたしは送る賛辞が見つからぬ
それほど今の祖国は危ないのだ
あゝ天の声、地の声を聞こう
再生の声を聞こう

真民先生は、毎朝、未明に起きて、重信川のほとりで、世界平和を祈願されました。

H25年12月8日 (S.M)



『めぐりあいのふしぎ』を読んで

真民さんが亡くなられて三年後、生誕百年を記念して出版された「めぐりあいのふしぎ」は三部構成されている。第一部は1981年出版された「生きてゆく力がなくなる時」、第二部は「愛について」、第三部は「春の泉」。

関心があったのは、「生きてゆく力がなくなる時」という第一部。本を手にした時に、心に抱えた渴望感を癒してくれそうなメッセージを感じられたからかもしれない。前を向こうとしている時には気がつかないで見過ごしてきたことが、一気に吹き出して責められているような気持ちになり、心が悲鳴をあげ、現状から逃げ出したい時がある。心が震え、体が鉛のように重くて、なかなか眠りにつけなくて、それでも、朝はやってくる。いつまでたっても、たんぽぽの綿毛のように自由にはなれない自分が苦しい。

生活の空虚感。受け入れなければならない覚悟をもてない矛盾が苦しめる。

死のうと思う日はないが
生きてゆく力がなくなることがある

よく聞くのは、ネガティブではなくポジティブにということ。でも 私はそうではない。自身がわからなくて矛盾に戸惑ったが、私はネガティブを受け入れられて楽になれた。じっと待とうと思う。力が湧いてくる日が来ることを信じたい。

父と母がいて生を受けることができるが、その後の人生を長く守られるのか否かは、それぞれ運命。真民さんの体の基幹には、父親の寿命の短さから経験した血が流れ、枝葉が伸びた。熊本に生をうけ、詩国で生きた。体は滅びたが、メッセージを受けた人々の血となっている。こんなに近くに記念があることを誇りに思い、再訪を期したい。

人は生きねばならないのか。苦しくても生きねばならないのか。自分に問うた。生きないという選択肢はあるのか。それはない。矛盾だらけでも生きなければならない。

価値があってもなくても、ただ、寿命が尽きるまでは生きなければならない。苦しくても生きるということが、私にできる父と母への感謝の気持ち。人に誇れることは何もできなくても、ただ生き抜くことでいいんだと気づいた。生を受けたことを父と母に感謝したい。

(M T)

ルーツを探る

ファミリーヒストリーという番組が NHK で放映されている。有名人の歴史を探り今の自分を見直すという主旨のようである。

夫が亡くなり三年になるが、祖父母が熊本の西南戦争で追われ愛媛の大洲に移ったことは聞いていたので、娘と熊本城へ行ってみることを計画した。

私が娘の住む広島に渡り、新幹線で熊本を目指した。兎に角速い。車中で弁当を買って食べていると、もう熊本、二時間足らずで広島から熊本迄行けるとは、正にスピード時代である。これ迄進歩出来たのは、列車の形、重さ、燃料と研究者の努力だと思ったが、昔の鈍行の方が景色や地域の様子も分かり情緒ある旅行が出来たかとも思ったりした。

一晚娘と思い出話や孫達の事も話し温泉に漬かり次の日に備えた。一日観光のタクシーで熊本城へ出かけた。松山城とは比べものにならない広大な土地に、本丸御殿大広間が三年前に完成した事もあり熊本城が余計に立派に見えた。

加藤清正が関ヶ原で手柄を立て五十四万石の領地となったそうだ。知能、腕共に優れていたそうで、税も少なく農民を愛したので、今に細川氏より名が知れているという。

夫の祖父は、何の仕事かは定かではないが、お城に仕えていたそうだ。明治十年西南戦争が起こり、原因不明の出火で天守閣の主要な建物が焼失たと記されていた。鹿児島以西郷さん等に負け、あちこちに流され、菊池の姓が日本の各地に根づいたといわれている。祖父は大洲城のお作法の先生として家族を養ったと聞いていたが、その基は熊本の菊池市の生まれも分かった。

又熊本の県民性は、真直で自分の意見を通し、後で間違いと分かっても後に引かない、「肥後のいごっそ」と伝えられているそうだ。正に夫の性格そのまま、DNA は歴史の中から生まれたのかなあと不思議でもあった。

昼からは、阿蘇山を目指しひたすら走り続けた。タクシーの一日観光だったので、ガイド付きの様に詳しく話してくれた。ミルクロードと名付けられ、牛乳を運ぶ為の農道だったのが今では、車車車の連続で町中の渋滞のようであった。駐車場が広くとられていたが、タクシーの運転手の顔で火口の直ぐ側まで行けたので助かった。冬支度で行ったが、肌寒く風もあり、火口からもうもうと吹き出す蒸気は、爆発さえ

なかったが、底にマグマが燃えているだろうと思うと、地球は生きているという怖さを感じた。見渡す限り裸山であちこちに過去には火口だったと思われる大きな穴が見られた。帰りも広い山々は外輪山に囲まれた広い峰々は芒ばかりが茂り、春には山焼きをし、近くから遠くから蕨取りの人が列をなすそうだ。いつ頃から爆発を繰り返したのか想像もつかないが、熊本の人達への恵まれた水、大雨になると洪水で町の人々を困らせたそうだ。自然の力は良きに付け悪しきに付け、昔から受け入れ生活して来たのが人間の知恵と力だろうと思った。 (Sa.K)



甥の結婚式

11月14日結婚式に参列した。

太平洋に面した高知県黒潮町。南海トラフ地震が来ると34mの日本一高い津波が想定され町をあげて対策に取り組んでいる所。

まさにその太平洋を背に180度の水平線が開け、4kmに亘る松の防風林、その手前にある一面のラッキョウ畑には柔らかい陽射しを受けて可憐な薄紫の花の絨毯が・・・時折飛んでくるトンボ、そんな光景を見渡せる広々とした芝生での人前結婚式を挙げたのは中学校の同級生のカップル。

この祝い事を機会に久しぶりに60・70歳台の夫の兄弟姉妹5組の夫婦が実家に集まった。学校卒業後、それぞれが田舎を離れて就職し家族を持ち孫も生まれ年金生活者となった今、身体のあちこちに違和感を覚えながらも、趣味にボランティアにゆとりを持って今を生きている。それぞれが日本の成長期に自動車産業・通信情報産業・学校教育に心血を注いだ時代を過ごし、日本の発展の一翼を担ったという自負を持っている人たち。

この人たちが集まれば御多分にもれず大宴会。8年ぶりに集った祝い事、大鉢に盛った鰹のお刺身やタタキ・お寿司の盛り合わせをメインに、七輪での焼き物等を肴にみるみるうちに空になったビールや一升瓶並んでいく。

皆温かい眼差しで新郎新婦を祝福した。

34歳の花婿は高校教師、花嫁は病院の検査技師。この夫婦は生まれた土地で

周囲の人たちに見守られながら、自分たちの力で次の時代を切り開いてくれると思う。人口が増え産業が活性化する時代は過ぎた現在の日本。時代は変われど、家族を大切にすること、故郷を思う気持ちは続いていく。歳を重ねるごとにますますその思いは強くなっていく。

普段は空家になっている主人の実家。隣町に住む義妹夫婦が家を管理し屋敷内に野菜を育て家を守り、いつでも私達を迎えてくれる。

また来夏は、東京の孫達とそこで過ごす事を楽しみにしている。

(S・K)

冬の短歌五首

・腸の痛 腹かさばく よりましと
飲み難き液 下剤飲み干す

・今朝張りし 薄氷り剥る 学童の
列賑やかに 舗装道往く

・「明日またネ」と言ひて帰る 子等別れ

横断歩道 右に左に

・袂底にて 百舌が来たりて バツと地に
降りてくわえて 小枝に戻る

・風吹かば 寒波と連れて 木枯らしの
紅葉を散らし 滑床の小径(みら)

(A・N)

雑 感

沢山のイシガケチョウ、様々な種類のイトトンボとの出逢いに恵まれた夏が終わり、コバノセンナの花の黄色で綾の秋が始まりました。

綾の秋は、十五夜祭、花火大会、町民体育大会、照葉樹マラソン、綾競馬、有機農業祭、文化祭(町全体の文化祭と自治公民館単位の手作り文化祭)、工芸まつり、イオンの森植樹祭、味噌作り、講守(男性は秋の社日講、女性は秋の山の神講)と行事が目白押しです。

今回の手作り文化祭で、私達の班は、ふるまいの為のまかないの係りの当番でしたので、味噌作りや講守で顔を合わせる度に相談を重ねました。

手作り文化祭は、9時に開始し15時までです。

9時から11時までは、カライモ団子、甘酒、3種類の漬物(糸巻き大根、大根、胡瓜)、お茶。11時から13時までは、古代米と香り米入りの2種類のおにぎり、千切り大根と野菜の煮物、甘酒、漬物、お茶。13時から15時までは9時から11時までと同じ。

役員と私達の昼食は五目寿司と素麺汁、千切り大根の煮物、漬物。終了後のあがりは五目寿司、豆腐汁、刺身、果物、等々。と決まりました。

前日の夕方からお茶菓子、昼食、夜のあがり(打ち上げ会)の仕込みに追われ、当日は早朝から準備が始まりました。

展示品を見終わったお客様を別室に招じ、小皿に盛りつけたものを銘々盆で、お一人お一人にふるまい、地区の内外の方々が歓談し、交流を温めます。今回は、前日、地元のFM放送で伝えられたこともあり、町外からのお客様も多かったようです。

カライモ団子はねりくりとも呼ばれる宮崎の郷土菓子のひとつです。さつまいもとお餅をねりあわせ、きな粉をまぶすのが一般的ですが、私達の班のものには餡が入っているものも有ります。

甘酒は昔ながらの米麴で作る奥深い滋味で、老若男女、運転される方も安心して飲むことができます。

宮崎の伝統野菜である糸巻き大根のお漬物の紅が鮮やかで、一緒に漬けた大

根の薄紅、塩漬け胡瓜の鮮やかな緑と共に彩りも美しい香の物の小皿が出来ました。糸巻き大根の漬物は、酢の力で深紅に発色するところが愛媛の緋の蕪漬に似ています。

千切り大根は宮崎の特産品。綾でも、木枯らしが吹く季節になると畑には千切り大根を干すための簀子が立てかけられ、青空に、真っ白な千切り大根が美しく映えます。県内の他の地区では沢庵漬けの為の乾し大根を作る大根櫓が冬の風物詩となっています。

十数名、和気あいあいと手際よく作業を進め、250名余のお客様をもてなすことが出来たのは、長年に亘って培ってきた地元の繋がりのおかげだと改めて感じました。私も、此方に来て4年目。3年前に初めて当番に当たった十五夜祭のふるまいでは右往左往するばかりで何をしたら良いのかさえ判らない状態でしたが、今回、少しは動けるようになったことにちょっと嬉しくなりました。

昼食とあがりに出された、五目寿司には、いりこ(煮干し)を小さくほぐしたものが入っています。私は、いりこの入ったお寿司をいただくのは初めてでしたが、芳ばしく美味しくいただきました。お寿司の具の全てを細かい微塵切りにするのも初めての経験でした。

豆腐汁は綾の郷土料理です。骨付きの鶏肉と椎茸で出汁をとり、出汁醤油(夏前に町民が地区別に各家庭の1年分を作ります)で味を調え、大きく切った豆腐(1/4丁)が温まったら、大きめの深鉢に鶏のぶつ切り2~3切れ、豆腐、椎茸を入れ、刻み葱と針生姜を盛り、熱い汁を注いで供します。心も身体も温まる優しい味が疲れた体に沁みわたりました。

イオンの森植樹祭はイオン環境財団と綾町の主催で行われました。老朽化した綾中学校の建て替えに、伐採時期を迎えた町有林の木材を利用し、その跡地を本来の里山に戻そうという取り組みです。山桜、シイ、ナラ、カシ、クワ、カヤ、モミジなど21種類の苗木5000本を500人の参加者が高台の斜面に植え付けました。遠く、太平洋まで望める眺望は素晴らしいものでした。そんな私達の上空をアサギマダラが南下していきました。広島県出身の河野宮崎県知事や綾町照葉樹林のマスコットの“もりりん”も参加し、汗を流しました。

終了後には綾町食品加工グループの方達によって、綾豚入りの豚汁がふるまわ

れましたが、あまりの好天で暑く、残念でしたが遠慮せざるを得ませんでした。

綾町には前町長の肝いりで、多くの工芸家が移住しています。

工芸まつりには、昔から代々、綾の榎で碁盤や将棋盤(名人戦、本因坊戦などで使われる盤です)を作っておられる方を始め、移住してきた方達も含め、多くの木工、陶芸、染色、食品等がてるはドームに一堂に会します。

我が家は綾紬さんの工房で藍染めを初体験しました。

晒し木綿を持参し、指導の下、ゴムで括ったもの、無作為に皺付しネットに入れたもの等を携え工房に入ります。

藍の花(染料表面の泡立ち)が咲いた染料(藍玉にアルカリ水、アルコール、糖分を加えた天然染料)の入った大きな容器がいくつも並び、むせ返るような強烈な臭いに圧倒されましたが、直に慣れました。藍の花が咲いて元気な状態でないと染められないとかで、温度管理は勿論、疲れた様子がみえると、だれやみ(晩酌)として焼酎を入れてあげる、などと言う楽しいお話を伺うことも出来ました。

何度も染料に浸したり、畳んだ中に染料が沁みこむように少し広げたりしながら様子を見ます。

ゴムをかけたものはほどき、ネットに入れたものは取り出し、水洗いです。名水百選に選ばれた綾の水の力を借りて、丁寧に水晒しをします。

予想外の模様が現われ、悲喜こもごもの瞬間です。

藍の生葉でも簡単に藍染めが楽しめるそうです。男山(端午の節句)の時、藍の苗を頂きました。秋には白い可憐な花を咲かせてくれました。今は、種が出来ています。来年は生葉染を試してみようと思っています。藍の生葉を布(木綿、絹、毛など天然繊維)の上に置き、ラップをかけてその上を木槌で叩くと、葉脈まで鮮やかな浅黄色に浮かび上がって来るそうです。生葉染は色褪せしやすいそうですが、それも一興でしょう。

家でもう一度水洗いをして、物干し竿いっぱい干した様子は、まるで染物屋さんになったようで、得意な気持ちになってしまいました。やみつきになりそうです。

てるはドームでは削っただけの山桜のスプーンを製品の2割弱の価格で売っていただけだったので、購入後、夫は教えてもらった通りに紙やすりで磨き、エゴマオイルで仕上げました。なめらかでとても口当たりの良いスプーンになりました。

帰りに綾産の新蕎麦粉を買って帰りました。綾競馬の頃、馬事公苑近くの錦原(にしきばる)あたりを蕎麦の花が真っ白に染めていました。真っ白な蕎麦の花の中にまじって、山ラッキョウの赤紫の花が可憐でした。原(ばる)とは、原っぱではなく高台と言う意味だと、つい最近知りました。

綾の日々は、穏やかに、穏やかに、過ぎていきます。

一方、世の中は、不可解なことばかりです。

あの震災から 1000 日。

漸く、福島第一原発 4 号機の核燃料棒の取り出し作業が始まっています。

現場は緊張の連続で、想像を絶する状態が続いているようです。

ひとたび事故が起きたら、とてつもなく大変で、長きに亘る作業が必要になることを、見て、覚えておかななくては、と背筋が伸びる思いでした。

しかし、特定秘密保護法案、国家安全保障会議(日本版 NSC)、中国の防空識別圏問題、消費税増税の関連問題、環太平洋経済連携協定(TPP)、国政選挙の違憲状態、等々あまりにも大きなニュースが多すぎて、原発の事、東日本のことは報道されることがめっきり少なくなっています。

そんな中、政府は避難区域の見直しや再編を進め、被曝線量の自己管理まで提案しています。あまりにも無責任です。おまけに、12月6日、経済産業省は「エネルギー基本計画」の素案を提示し、原発を「重要なベース電源」と評価したうえで、「原子力規制委員会によって安全性が確認された原発については再稼働をすすめる」と明記しました。とんでもないことです。安全に操業されたとしても、使用済みの核廃棄物の処理方法が未だ確立されていないことをどう考えているのでしょうか。

最近、オンカロを見学して以来、脱原発論者に転じた小泉元総理の言動が注目を集めています。何らかの思惑が有るのかもしれませんが。しかし、今以て、各方面に大きな影響力を持つ小泉氏の即時脱原発発言は大いに歓迎したいと思います。

被災地では瓦礫処理が殆ど終わり、それに伴い職を失う人も少なくありません。

何か手立ては無いものなのでしょうか。今後の生活再建の為には、安定した仕

事が不可欠です。

各方面からの懸念、反対にもかかわらず、12月6日、特定秘密保護法案は参議院本会議でも強硬採決、可決、成立し、13日公布、一年以内に施行されることになり、準備作業が進んでいます。

今までにも、公務員や特定の職業従事者には守秘義務が有りました。それで不十分なら、何らかの手直しをすれば良い筈です。それを、わざわざ新しい法律を作るのは何かしら含む所がある様な気がしてなりません。新聞に掲載された、特定秘密保護法案の全文を読みました。先ず黙読しましたが、さっぱり意味が解りません。音読してみました。一文が長い。文章の中に“当該〇〇”“××条△△項”が多すぎるため、私には何のことやらわからない部分が殆どでした。読解能力不足と言われればそれまでですが、何のために、何を秘密にしたいのか、判らないと余計に疑わしく、不安がつのります。

特定秘密保護法案に関連して石破幹事長のブログや発言が取沙汰されています。

デモをテロと同じ、とするブログ上の発言に接した時は、理論武装に関しては右に出る者はいないとされている石破氏が何という発言、と思いました。しかし、法律家によると政府のテロリズムの定義文を法律上正しく読み解くと、石破氏の発言に行き着く、というのです。まさしく“官僚の作文”です。

今回の特定秘密に関する報道を牽制する発言も、臨時国会終了後の安倍総理の“一般の人や報道関係者が罰を受けることは有りません”という言葉に配慮してか、訂正されました。多分、何とでも、解釈できるように“作文”されているのでしょう。何時、どのように解釈が変更されるかわからない危うい法律です。

特定秘密保護法案は有りませんでした。私自身の怠慢によって、原発に関して無関心のまま、人生の殆どを過してしまいました。今後は、意図的に、秘密にされるに違いありません。知ろうとすることすら許されなくなるかも知れません。

この法律が施行されたら、多分、武器輸出三原則も非核三原則もいつの間にか無くなり、集团的自衛権が大手を振って罷り通る日が来るに違いありません。そして、憲法九条も無くなってしまおうのでしょうか。怖いことです。

社会保障の拡充と膨れ上がる国の借金解消の為に認められた、消費税の増税だったはずですが、いつの間にか、大企業最優先のばらまきともいえる景気対策に税収は消えてしまいそうです。ここでも、官僚の“作文”は憎いばかりです。軽減税率の取り扱いについては、“必要な財源を確保しつつ関係事業者を含む国民の理解を得たうえで、消費税率 10%時に導入する”とされています。10%時とは導入時か、10%の間なら何時でも良いのか、誰も明確には答えていません。

ニュースに触れる度位に怒ってばかりの日々ですが、楽しい事、嬉しいことも沢山ありました。

サシバの渡りを見るために都城市金御岳に二度出かけました。大砲の様な望遠レンズを並べた常連の方から、サシバと一緒にアサギマダラが南下していく様子を写真に撮ったという話を聞くことが出来ましたし、二度目には幸運にも鷹柱を観ることが出来ました。

日南市の北郷町で行われた“2013 森林セラピー基地全国サミット”に参加し、餌肥杉シートでランプシェードを作りました。木のぬくもりが感じられる優しい灯りが気に入っています。

日南市南郷町にハイタカの棲息地があり、空高く舞う姿を見ることが出来ると知り、出かけました。種類は判りませんが、確かに猛禽類が翔ぶ姿を、初めてはっきり写すことができました。猛禽類はさっぱり区別が付きません。

一番嬉しかったことは、大五郎がやっと私を真に信頼してくれるようになったことです。彼は幼い時のトラウマから、傷付いたところを触ろうとした時や、くわえているものを取り上げようとすると、飼い主である私達にも攻撃的になるところが有りました。先日、後ろ足を引きずって痛そうにしていました。背中を撫でてやっていると、彼の方から痛い脚を私にあずけたのです。今までなかったことです。信頼してくれた、と思うと熱いものがこみ上げてきました。幸い、傷も無く、数日で、普通に走り回るようになりました。

悲しく辛いこともありました。お隣には十数匹の猫達が居ますが、最近漸く、私達を警戒しなくなって喜んでいました。そんな矢先、仔猫がフェンスの隙間から入って来て、次の瞬間、杏がくわえてしまったのです。すぐに取り上げましたが、助けるこ

とが出来ませんでした。暫く私の腕の中で苦しそうに大きな息をしていますが、獣医さんに着く前に息絶えてしまいました。真っ黒で、真ん丸な緑の瞳が可愛い仔猫でした。以前の様に、私達を見ると脱兎の如く逃げていけば、こんな目には合わなかったのにとすると、出逢う度に、呼びかけていた私の軽率な行動が悔やまれてなりません。飼主さんのお留守中の事でした。戻られた時、連れて行って謝りました。快く許して下さいましたが、心中を思うと、よけいに辛いです。仔猫に傷が無かったことだけが救いです。40 kg近い大型犬と、掌にのる様な小さな仔猫。ショックが大き過ぎたに違いありません。まだ、猫達を正視することが出来ません。ゴメンネと呟きながら足早に遠ざかっています。

今年の秋は山の装い、街路樹、庭木が殊の外鮮やかで、長くその美しさを保っています。

夏から秋にかけて、たまにコムクドリやヤマガラを見るくらいで殆どモズとヒヨドリばかりだった、我家の裏の木立にはジョウビタキを始め、シロハラ、ツグミ、シメなどの冬鳥が戻ってきました。葉を落とす木々が増え、柿に集まるメジロにも逢えました。

あつという間に今年も終わりです。

(K.O.)

ヒラさんとの再会

くらしの学習会とは縁の深い現在東京在住のヒラさんが、思いがけず12月4日、愛媛に帰ってきました(あえて「帰って」です)。県国際交流センター(EPIC)で行われた外国人支援ネットワーク会議の長期滞在者の視点から語るというコーナーの発表者として、エピックの要請を受けてのことでした。当日、その会議の終了後、私も別の会議で EPIC に行っていたので、一緒にうちに帰り、晩ごはんを食べながら久しぶりに楽しいひと時を過ごしました。今年から外務省に勤め始めた愛娘は毎日真夜中の帰宅だとの事、特定秘密保護法案関連の仕事もあるようです。今は家族全員日本に帰化しましたが、インド出身のヒラさん、バングラデシュ出身のご主人、その間に生まれた一人娘、それぞれが日本社会を支えてくれるそんな思いを強くしました。愛媛県も多くの外国人によって支えられています。(T・H) 以下資料

県内外国人登録者数

平成25年4月1日現在 EPIC調

| 順位 | 国籍 | 人員 | 順位 | 国籍 | 人員 |
|----|-----------|-------|----|-----------|-------|
| 1 | 中国 | 4,800 | 39 | ウクライナ | 3 |
| 2 | 朝鮮・韓国 | 1,390 | 39 | クロアチア | 3 |
| 3 | フィリピン | 926 | 39 | スイス | 3 |
| 4 | ベトナム | 343 | 39 | ボリビア | 3 |
| 5 | インドネシア | 229 | 39 | マリ | 3 |
| 6 | アメリカ | 175 | 39 | ラオス | 3 |
| 7 | ブラジル | 138 | 39 | アルゼンチン | 2 |
| 8 | タイ | 99 | 39 | イスラエル | 2 |
| 9 | ネパール | 65 | 48 | ウズベギスタン | 2 |
| 10 | インド | 58 | 48 | エチオピア | 2 |
| 11 | イギリス | 52 | 48 | オランダ | 2 |
| 12 | オーストラリア | 39 | 48 | ケニア | 2 |
| 13 | カナダ | 38 | 48 | コロンビア | 2 |
| 14 | マレーシア | 37 | 48 | ドミニカ共和国 | 2 |
| 15 | ペルー | 24 | 48 | パラグアイ | 2 |
| 16 | ニュージーランド | 20 | 48 | ブルガリア | 2 |
| 17 | スペイン | 19 | 48 | 南アフリカ共和国 | 2 |
| 17 | エクアドル | 16 | 48 | モルドバ | 2 |
| 19 | フランス | 16 | 58 | イラン | 1 |
| 20 | カンボジア | 15 | 58 | ウガンダ | 1 |
| 21 | パキスタン | 13 | 58 | オーストリア | 1 |
| 21 | ロシア | 13 | 58 | ガーナ | 1 |
| 23 | バングラディッシュ | 10 | 58 | キューバ | 1 |
| 24 | モンゴル | 9 | 58 | シエラレオネ | 1 |
| 25 | ドイツ | 9 | 58 | シリア | 1 |
| 26 | スリランカ | 7 | 58 | スウェーデン | 1 |
| 26 | ジャマイカ | 6 | 58 | スロバキア | 1 |
| 28 | アイルランド | 5 | 58 | セルビア | 1 |
| 28 | イタリア | 5 | 58 | デンマーク | 1 |
| 28 | ナイジェリア | 5 | 58 | トリニダードトバゴ | 1 |
| 28 | メキシコ | 5 | 58 | バルバトス | 1 |
| 28 | ルーマニア | 5 | 58 | フィンランド | 1 |
| 33 | ベラルーシ | 5 | 58 | ブータン | 1 |
| 33 | エジプト | 4 | 58 | ポーランド | 1 |
| 33 | シンガポール | 4 | 58 | マダガスカル | 1 |
| 33 | ベルギー | 4 | 58 | ホンジュラス | 1 |
| 33 | マラウイ | 4 | 58 | モンテネグロ | 1 |
| 33 | ミャンマー | 4 | | 無国籍 | 1 |
| 39 | トルコ | 4 | | 総計 (76ヶ国) | 8,682 |

お知らせ

・総会のお知らせ



総会は、1月7日(火)午前11時～ 林宅で行います。2013 年度会計報告、活動報告、2014 年度活動計画など話し合います。

また、総会終了後一品持ち寄りによる新年会を行います。皆さま万障お繰り合わせのうえ、ご参加のほどお願いします。



くらしの学習会では、随時会員を募集しています。

活動会員 2000 円/年 購読会員 1000 円/年

振込先口座番号(郵便局) くらしの学習会 01610—5—21026

問い合わせ先 TEL/FAX 089—964—6956(林)

E-mail: kt-hayashi@nifty.com

編集後記

11 月末に松山で日本語教育学会があり、その発表のため、本当に忙しい11月を過ごし、ほっとした 12 月 7 日、親子ほども年の違う友だちの誘いで、思い切って京都南座まで歌舞伎を見に行ってきました。顔見世興行で市川猿翁、猿之助、中車の襲名披露最後の舞台でした。車椅子に座り、猿之助の代読で両手のみ動かしての猿翁は哀れでした。ここまでして口上の舞台に出さなくても・・・そんな気がしましたが、猿翁あつての中車でもあるわけで、色々事情などあるのでしょう。出し物 5 つ、季節柄「元禄忠臣蔵」もありました。その中で中車は頑張っていました。俳優香川照之として実力も実績もあつても、やはり声の出し方が歌舞伎でずっと育ってきた歌舞伎役者とは違うなと思いました。喉を痛めなければいいなと心配になりました。

一番の出し物「黒塚」は動きの少ない舞台で、いつもエネルギッシュに動き回る猿之助の役としてはちょっと澁すぎるような気がしました。年輪を重ねたらきっとはまり役になることでしょう。

京のおばんざい、生麩、蕪料理、鱧などおいしかったです。紅葉には少し遅かったのですが、東福寺へも行ってきました。週末だったからか、人が多い所へ行ったからか、京都はどこも人でぎわっていました。師走の京都、また別の時期にゆっくり訪れたいと思いました。(T・H)